



満開の黄桜とシャクナゲと愛犬ユズ 令和7年4月21日

対立から和合の世界へ

今、私たちを取り巻く世界情勢は、国家間の対立や争いが激化し、先の読めない悪化の一途をたどっているように思います。

また、自然環境は、地球温暖化に伴う気温上昇や海面上昇、異常気象の増加、生態系への打撃など、懸

東龍寺住職 渡邊宣昭

龍 聲

東龍寺報

平成元年三月廿五日創刊

発行編集所 〒959-1502 新潟県南蒲原郡田上町 曹洞宗 東龍寺

電話 (0256)57-3395

FAX (0256)57-2174

E-mail: ryusei@ginzado.ne.jp



ホームページ

http://www.ginzado.ne.jp/ryusei/

念される課題が数多く見られます。特に、夏場は気温四〇度越えが当たり前になってきて、クーラー無しでは過ごすことが出来ません。これら多くの多くは、私たち人間の我利我欲、すなわち貪りから起ってきています。このような自己中心的な世の中で私たちは、何を信じて生きて行けばよいのでしょうか。仏教で最も尊んでいる仏法僧の三宝こそ、その拠り所としていくことを願っております。道元禪師が中国へお渡りになり、お釈迦様から繋がる教えをお授け下さった如浄禪師から、口伝えで授けられ、その弟子で永平寺の二代目となられた懐奘禪師が漢文のまま筆録され、さらに瑩山禪師が仮名交じり文にされ、現代に伝わっている『教授戒文』に次のようにお示しがあります。

阿耨多羅三藐三菩提を称して仏宝となす。清浄離塵なるは乃ち是れ法宝なり。和合の功德は僧宝なり。是れ一体三宝なり。

阿耨多羅三藐三菩提とは、もうこれ以上の真理はない、真理のぎりぎりのところを現しています。宇宙の真理そのもので、これが仏宝です。清浄離塵なるもの、それは自然の法則そのもので、これ以上に清らかなものはないと捉えていくと、一つの真理が、自然の法則となつて千差万別の姿で現れている、これが法宝です。それらが、争わないうで、調和がとれて、繋がり合った和合の姿、これが僧宝です。そして、三宝は別々のものではなく、一つの真理が三つの相をもつて現れているという理解です。

『阿彌陀經』に共命鳥という興味深い例え話があります。共命鳥とは、仏教における想像上の生きもので、体は一つで頭が二つある鳥のことです。



共命鳥

「共命鳥は他の鳥と比べても殊更に美しい羽と声を持つていたが、両頭どちらも自らが世界一美しいと譲らず、ついに『片方を殺してしまえば自

分が世界一になる。』と考えるに至る。そして、密かに片方の食事に毒を盛り食べさせた。結果として食べた側を殺すことは出来たものの、そもその身体は一つであるため食べさせた側にも毒が回り、ついに共命鳥は命を落とす。このことがあつてから、浄土の共命鳥は『他を滅ぼす道は己を滅ぼす道、他を生かす道こそ己の生かされる道』と鳴き続けている」というのです。

私たちの現実世界も、これに似ているのではないのでしょうか。例えば四大家族であれば、つながり合った一つの命を共にしながら、四つの頭が突き出ているような存在とも言えるかもしれせん。それは家族に限らず、仲間、職場、地域へと広げていけば、同じことが言えるでしょう。もっと、広く捉えれば、日本、そして世界と繋がりがあつていると言えるのではないのでしょうか。

そして、これは決して人間だけではなくて、私たちを取り巻く環境世界とも一つの命として繋がつていのです。この命こそが仏宝であり、その中の一つ一つの存在が法宝であり、その繋がりが合いが僧宝と云えるのです。

どうか、仏法僧の三宝を信じ、自他ともに救い救われる道を歩んでまいりましょう。

合掌

特派布教巡回からの学び

東龍寺住職 渡邊 宣昭

昨年の十一月一日(土)から、十一日間、長崎県杵岐の島へ管長 猊下の名代として特派布教に行つてまいりました。杵岐の島は博多港から約七十六キロ、面積は佐渡の六分の一、南北にやや長い楕円形、最大標高二一三メートル、県内最大級の平野があり穀倉地帯にもなっています。千七百年前の『魏志倭人伝』にも倭に関する情報約二千文字で書き記された折、その中に一支国



杵岐市(杵岐の島)

に関する情報五十七文字で記されている、歴史と伝統のある島でした。

そして、十一月に曹洞宗の全寺院十七か寺で、順番に十夜歎仏法要(杵岐歎仏)が営まれ、その中で布教をさせて頂きました。十夜とは、農作物の収穫感謝、先祖供養、最近亡くなった人の供養等をするために、毎年、お寺で行われる法要で、もともとは、陰暦の十月五日の夜から十五日の朝まで、十日十夜



十夜歎仏法要 11月10日 於・長崎県杵岐市龍養寺



法要中の位牌堂の様子11月10日 於・長崎県杵岐市龍養寺

にわたって昼夜ぶつ通しで念仏を唱える法要でした。しかし、十日十夜続けることは現実には困難なので、現在は十一月一日から二十日くらいにかけて、寺院ごとに順番に行なわれます。

歎仏とは、曹洞宗の寺院で主に行われ、仏を讃歎し、仏の功德をたたえて大勢の僧侶が一斉に節をつけて仏名(仏様の名前)を唱えることです。特に杵岐歎仏は、一時間ほど掛かる法要を短縮して、七、八分で行い、それぞれに施主がついてお参りをして、一時間に七、八座つとめるのです。さらに、中国の唐

の時代の独特の節回しと、馨子(形の鐘)・木魚・サンテン(太鼓・鯛口・妙鉞)を用いた独特のリズムの読経で、とても、印象深い法要でした。

特に、法要の前後、位牌堂では檀信徒が御先祖に供物をお上げしてお参りをし、久しぶりの再会を悦んでいる光景から、仏法僧の三宝が現成していると感じました。

また、十二月六日(土)〜七日(日)には、京都市内の一会場でしたが、「第六十一回成道会」のついで、特派布教をつとめさせて頂きました。十二月八日成道会(お釈迦様僧侶・檀信徒が一堂に会し、「成道



成道会坐禅 12月7日 於・京都市慈眼寺



特派布教 12月7日 於・京都市慈眼寺

杵岐の島・京都、いずれの教場も仏の教えが生き生きと実践されていきました。当地新潟では、懺法施餓鬼という伝統ある法要が、脈々と受け継がれてきましたが、コロナ禍を経て、ほとんど行われなくなっております。是非、僧侶・檀信徒と共にこの伝統ある法要を絶やさず受け継ぎ伝えて行きたいと念じております。

合掌

会慶讃法要・四十分の坐禅・食事作法に従った食事・法話・四十分の坐禅」を共に修行するものでした。昭和四十年から、コロナ禍も休まず続けてこられたのです。道元禅師は『正法眼蔵』「行持上」の巻で、われらが行持によりて、諸佛の行持見成し、諸佛の大道通達するなりとお示しです。

その意味は、「今の私たちの行持によって、諸仏の行持が現れている。諸仏の大いなる道がここに流通し、達しているのである。」となります。つまり、仏様(仏宝)が、今ここに現れ、その教え(法宝)が、坐禅・飯台の修行の実践で現れ、仏宝と法宝を拠り所とする僧侶と檀信徒が和合した世界(僧宝)が現れていました。

両祖の御姿

十日町市少林寺住職
駒澤大学名誉教授

佐藤 秀孝

曹洞宗・臨濟宗・黄檗宗など禅宗で描かれた肖像画を「頂相」と呼びます。頂相とは禅僧の姿を描いた肖像画のことです。頂は頭と頭の天辺のことで、頂相とはとくに御顔を中心に上半身を描いたものを意味しました。しだいに曲泉（婉曲の椅子）や禅椅（坐禅をする椅子）に坐した全身画像が主流になつていきました。

十四世紀中葉に著された鎌倉円覚寺（臨濟宗円覚寺派大本山）所蔵『仏日庵公物目録』によりまず、多くの中国禅僧の頂相が鎌倉の地に伝えられ収蔵されていたことが知られております。仏日庵とは十三世紀後半に蒙古襲来（元寇）に對峙したことで知られる円覚寺開基檀越の執権北条時宗（一二八四年没）を祀る廟所です。

禅宗では祖師生前の姿をそのままに書き写すことを重んじました。



佐藤秀孝 先生

これを「写真」といいます。写真とは真を写す、ありの

ままの姿（真影）を書き写す意です。生前に描かれた頂相を寿像、逝去した後に描かれた頂相を遺像といえます。しかも中国や日本の絵画の特徴ですが、絵の upper 段に贊の付される場合が多いのです。像主（描かれた本人）が自ら寿像に寄せた贊を自贊といい、遺像に對して他の禅僧が寄せた贊を祖贊といえます。稀に絵のうまい画僧が自画像を描き、自ら贊を寄せることもあり、これを「自画自贊」といいます。

また立体的な頂相として仏師が開山和尚などの姿を刻んだ木造坐像も多く伝えられております。

禅宗は祖師信仰を重視する宗派です。その時代その時代に仏道を実践し仏に代わって人々に教えを説いてきた祖師を崇敬しているのです。日本全国の禅宗寺院には膨大な数の頂相が所蔵されており、主な御寺には開山和尚の頂相や主要な歴代住職の頂相が残されています。

葬儀や忌日あるいは年回の際には塔頭（廟所）に安置される木造坐像に對して供養がなされ、頂相を飾って報恩の読経が行なわれます。頂相は今でいう遺影写真と同

様の役割をなしておりました。これを掛真といい、軸装された真影頂相を掛けることです。

曹洞宗では「一仏両祖」を御本尊として祀っております。一仏とは今から二五〇〇年前の古代インドで仏教を開かれた釈迦牟尼仏、お釈迦さまのことです。両祖とは高祖承陽大師・永平道元禪師と太祖常済大師・瑩山紹瑾禪師の御二人のことです。道元禪師（一二〇〇—五三）は鎌倉時代に曹洞宗の流れを中国南宋の地から日本に伝えられ、越前（福井県）に大本山永平寺を開かれました。瑩山禪師（一二六四—一三二五）は曹洞宗の教えが日本全国に広まる起点となられたお方で、能登（石川県）に大本山總持寺（明治に横浜市に移転）を開か



石川県永光寺伝燈院所蔵「瑩山禪師木造坐像」1軀



福井県宝慶寺所蔵「道元禪師自贊頂相」1幅

れました。

そのため曹洞宗ではこの御三方を一仏両祖と称え、寺院内に祀られております。今では曹洞宗の檀信徒各家の仏壇にも一仏両祖の尊像画像が祀られ、信仰の寄る辺となつております。ただし、両祖の御姿は現存する古い頂相に見比べてみますと、そのままの姿を描く写真というより、かなり品の高い姿に修正され過ぎたものとなつています。

住職より一言

佐藤秀孝先生は一昨年（令和六年）春、駒澤大学仏教学部教授を退任され、現在は同大学名誉教授として活躍しております。住職の妹が先生に嫁いでおります関係からとても身近な存在でもあります。

退任後は、特に曹洞宗「頂相」の研究に精力的に取り組まれており、大本山永平寺の月刊誌『傘松』にて連載を続けておられます。また、昨年および一昨年の眼蔵会においても、「頂相」について貴重なお話を賜りました。

このような縁から、この度の寺報へのご寄稿をお願いした次第です。

先生の今後ますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

東龍寺眼蔵会に随喜して

山口県 玄空寺副住職 吉 本 英 器

令和七年度、第二十二回眼蔵会

で典座寮(台所)の一員として参加させて頂きました、山口県玄空寺副住職の吉本英器と申します。東龍寺ご住職、渡邊宣昭老師の御厚意を頂戴しまして、二年続けてこのような貴重な機会と配役を賜りました。心より御礼申し上げます。

まず、東龍寺様の眼蔵会の最大の特徴は、僧侶だけの会ではなく檀信徒、一般の方とともに「正法眼蔵」を学べるように催していたことです。

この「正法眼蔵」は道元禪師様が書き残した難解な書物ではありますが、参加者の方は熱意を持って来られているため、皆真剣な表情で駒沢大学教授、角田泰隆老師の講義に臨み三日間の差定をお務めになられていました。一心に仏道を行じるその姿は修行を始めたばかりの頃を思い出すものでもありません。



眼蔵会、典座寮の皆さん 筆者右端 7月4日朝

さて、禅宗において台所の総責任者を典座と呼び、道元禪師様がその典座に対する教訓をまとめたものを『典座教訓』と申しますが、その内容は、調理場を整えること、食材を大切にすること、他人まかせにしないこと、喜心・老心・大心の心で、六味(苦・酢・甘・辛・鹹・淡)を意識し、三徳(輕軟・淨潔・如法)をもつて調理すること等を説かれております。また、「衆僧を供養するがゆえに典座あり」という一節からも、供養とは何か、不特定多数の人に対しての食事ではなく衆僧に対する食事とは何か、このことを正面から向き合えば続けなければならないと厳しく指摘しています。

しかし、初めて参加させて頂いた令和六年度、恥ずかしながらこのことができておりませんでした。永平寺でも典座寮の経験をしてきたから何とかなるだろうという慢心から傲りが生じており、そのため、真正面から食材と向き合っている典座寮の諸先輩の姿を見て後ろめたさと恥ずかしさの気持ちで一杯でした。

定多数の人に対しての食事ではなく衆僧に対する食事とは何か、このことを正面から向き合えば続けなければならないと厳しく指摘しています。

昨年の眼蔵会では、僅かながらも上記のことができたのか、少しだけ自分の中でも手ごたえを感じることができ、今までと違って真正面から物事と向き合え、本当の意味で私自身の仏道修行の一步を踏み出すことができたそのような気がしました。

この出来事から、『典座教訓』を再び読み返してみると、自己とは何か、人とは何か、仏教とは何か、と考えているつもりでただ語録や本の文字の表面をなぞって満足していた現実に気付かされました。道元禪師様が自身が実際に「典座」をお務めになられたのかどうか分かりませんが、なぜこのような教訓をお与えになられたのか。恐らくこのときの私のような姿勢で公務に当たっていた僧侶を戒める目的もあつたでしょう。また、それだけではなく、仏法に従って生き仏者としての人格を形成する一役を担っているからこそ、敬意を持って命ある食材と向き合い調理をさせて頂く。この機会がどれ程尊く大切な修行なのか気付いて欲しいという願いを込めて教訓を与え、書き残したのではないかと思うようになりまし。

吉本師には、感染状況が落ち着いてきた折、一昨年、五年ぶりに眼蔵会の飯台を復活するに際し、遠く山口県から山縣老師・松原老師とともにお越しください、典座職をお務めいただきました。心より御礼申し上げます。いつも笑顔をお絶やさず穏やかに働かになるお姿に、深く感じ入っております。今後とも遠路ではございますが、お力添えを賜れますようお願い申し上げます。

お寺の決まった仕来りに従ってただ時を過ごす。これだけでは修行にはなりません。自分自身が主体性を持ってテーマを掲げ、試行錯誤を繰り返して、拙いながらも仏道を行じさせて頂き円環を作る。そして、その環を繋ぎさらに次の世代に託していく。このことこそが仏道修行であり、この行持を続けることによって初めて僧侶として成り立つのだと、この会を通じて気付かせて頂きました。

住職より一言

初めての「眼蔵会」

田上町 中村 拓 己

田上町の名刹・東龍寺にて開催される僧俗一如・行学一如の眼蔵会、令和七年七月三日(木)〜五日(土)に開催された第二十二回の法会に初めて参加いたしました。東龍寺は私の母の実家の菩提寺であり、ご住職が熱心に佛法を説く活動を展開しておられることは、東龍寺様のホームページを通して知っていて、そのなかで我が家の菩提寺のご住職も参画しておられる月例坐禅会・加茂法話会にはこれまでも参加しておりました



第22回眼蔵会 7月4日降誕会法要後 筆者最前列右端

が、ごと眼蔵会に関しては、その存在は知っていて関心はあったものの、現役サラリーマンには平日を含む日程的に参加が難しかったため、これまでは参加できずにいま

法眼蔵」の、また更にその中でも難しいと言われている(らしい)「有事(うじ)」の巻が今回のテーマということ、浅学菲才の自分が参加して大丈夫なのか?とい

した。ですが、今年度はたまたま例年より有給休暇を多く取得できたので、度だったので、そのいつもより増えた有給休暇五日間のうち二日間分を利用して、初めて参加申し込みを出しました。

う思いはありました。実際に、三日間で六コマの講義時間がありました。最初の「コマ(一時間)」で進んだのがテキストで十行もいかないくらいで、「どうなることやら・・・」と思っていました。それでも角田泰隆先生が工夫を凝らした講義の進め方や身体を動かす軽い運動の時間も入れるなどよくよく練られたカリキュラムのおかげで、何とか脱落せずに参加することができました。

その「よく練られたカリキュラム」には、坐禅・朝の作務・応量器を使った食作法、本来は四月に行うべきところ、多くの方が参加するこの機会に行われる降誕会の法要など、言葉は不適切かもしれませんが永平寺・總持寺の両本山までいかなくとも佛法・曹洞宗の教えにどっぷりと浸ることのできる中身の濃い二泊三日でした。今から思えば、せっかくの機会、しかも懇親会と言う場ももうけていただいていたのに、もうちょつと僧侶の方々や在家の出席者の方々との交流を持つようにしたらよかつたかな、とも思っています。

現役で会社勤めをしている間は、毎年参加というわけにはいかないでしょうが、二泊三日通しの参加でなくても大丈夫なようです。応量器の使い方を忘れない程度に(苦笑)、参加が出来るそうなときに



12月20日 月例坐禅会での皆勤賞授与

は参加したいと、また坐禅会・法話会にはこれからも積極的に参加していく所存です。

住職より一言
中村さんは、コロナ禍であった令和二年七月より月例坐禅会に参加されております。

令和六年・七年の二年間は皆勤され、さらには平日夜の加茂法話会にも、お勤めの帰りでしょうが、熱心に聞法に足を運ばれています。

また、令和七年には眼蔵会に初めて参加され、真摯に行持をつとめられました。

そのように、徐々に仏道修行を深めておられるお姿は、まことに有り難く、頼もしく感じております。仏法を抛り所とされ、今後ますます御精進なされますことを心より念じております。

眼蔵会 案内

第二十三回眼蔵会を七月九日(木)〜十一日(土)に行います。是非、ご参加ご修行ください。

父を偲んで

原ヶ崎 山川 敏昭

昨年十二月十二日に父は亡くなりました。前日の午後四時頃、介護施設の方から、食事の飲み込みが悪くなったので、今後は点滴で水分・栄養を補って対応していくとの電話がありました。その翌朝七時頃、呼吸が弱くなったので来て下さいとのこと、間に合いませんでした。九十四歳まで生き、大病もなく最期二年半程、施設にはお世話になりました。祖母トメと同じ日でした。

父に、生前俺は、五歳で父と別れ、家を守ってきたこと、又近所の家とは三代に渡り付き合うことになるかと幾度か聞かされました。私も七十歳を目前にして、父の言ってきたことが分かってきました。三代に渡るといふことは、家にたとえるならば、自分は一世代ではないということ。その一代を悔いを残さないようにしたいと思つて



山川仙六家七日経の折 筆者前列右より2番目 1月29日

す。お前は農家の倅だから農業をするんだと。私も農業が性に合っていたのか続けています。長男・敏幸も五年程前から就農しました。時代や環境、労力に合った農業をして行きたいと思えます。暑すぎ

る夏の影響もあり、桃・ブドウは伐採しました。今後跡地に何を栽培するか、家族で考え中です。父が生きていたら、農業談義をしたところですが、叶いません。ところで、通夜・葬儀には、お寺様始め親戚近所の方々に教えてもらい、大変お世話になり、無事終えることが出来ました。今後、納骨・壹周忌と続きます。私には三人の妹がおります。一人一人父への思い出等、違うと思えます。法要の時、父の思い出話等しながら：。それが供養かなと思つて

います。最後にになりますが、昨年より総代を仰せつかりました。力不足ではございますが、皆様より御指導賜りますようお願い申し上げます。

敏昭氏は、御尊父様に続いて、檀徒総代をお引き受け下さり、大変有難く感謝しております。篤農家として地域の皆様に慕われ信頼されている方ですので、その力を東龍寺護持にも向けて下さることを切に願っております。

住職より一言

坐禅から得たもの

新潟市西区 阿部 開生

僕は今、中学三年生なのですが、今から四年前の小学五年生の時に、初めて坐禅会に家族で参加しました。父と母と弟でいつも参加しています。父と母がもつと前から行って、坐禅の良さを教えてくれました。最初はあまり乗り気ではなかったのですが、ユーチューブで集中力がつくというのを聞いて、行ってみることにしました。

坐禅の作法などを聞いてみて難しいなと思えました。いろいろな雑念(明日なにをするか、宿題は終わりそうかなど)が浮かんで、最初はうまく集中できませんでしたが、一つ一つ作法を真



成道会坐禅会、皆勤賞 筆者右より2番目 12月20日

似して坐禅をしてみたら、二回目はかなり集中できました。小学五年生の時の僕は集中力がなくて、小学校の授業をまともに聞けていませんでした。ですが、繰り返し坐禅に行くうちに、いろいろな場面で集中力がついてきたなと感じることが増えてきました。小学六年生になった頃には、かなり集中力がつき、小学校の授業にもついていけるようになり、坐禅の恩恵を感じられるようになりました。今も授業に集中したり受験勉強に打ち込んだりできていますので、あの時、行ってみようと思つて良かったと思つています。

通つているうちに、一緒に通っている人たちと挨拶したり少し話したりすることで、一緒に坐禅する楽しさも感じるようになりました。坐禅を通して関わりが深まったと思

います。坐禅の習慣が生きているのは勉強だけではありません。僕は今年夏まで陸上部に所属していましたが、僕はメンタルが弱すぎるので、レースの前になると、とてもないぐらいい緊張していました。長距離を走る日は、苦しくなることを考えてしまうと、息がでなくなるといふくらい緊張してしまい、毎回「どうしよう」と考えていました。そんな時に友達が瞑想をしてみようと言ってくれました。試合

前に、芝生の上で坐禅を組んでみたら、呼吸が整い、だんだん心臓を締めつける何かの力が弱くなった気がして、緊張がほぐけていくのを感じました。

坐禅会は定期的に自分の心を見つめ直す良い機会になっていて、受験で心が苦しくなっている自分にも合うと思います。僕はこれからも坐禅と向き合っていきたいと思っています。このように坐禅は生活のいろいろなところに生きると思うので、坐禅に興味があるけど、よく知らない、行こうか悩んでいる人、自分の心と向き合ってみたいと思う人は、行ってみようと思ったら、一回来てみてください。

住職より一言

阿部御一家は、御両親・弟さんの家族四人で坐禅に親しんで下さり、嬉しく思います。最初、お父さんが、新潟市西区の自宅から、自転車を通って来られたのにビックリしたことを覚えております。小学生の弟・隆平君も休まずに参加してくれて中学生の学習会を母体に始めた坐禅会ですので、若い方が来てくれるのは、何よりの励みになります。

開生君は高校生になり忙しくなるでしょうが、今後も、続けて下さることを願っております。

【東龍寺年中行持】

- 六月 金毘羅大祭
- 八月一日 うらぼん会(盆参)
- 八月二四日 水子地藏尊並びに観音様大祭
- 九月二三日 秋のお彼岸会(お彼岸の中日)
- 十月十日 常齋米法要
- 十二月三十一日 除夜祭(除夜の鐘) 大般若祈禱会
- 一月一日 寺年始(近隣の檀家)
- 一月二日 寺年始(遠方の檀家)
- 三月二十日 春のお彼岸会(お彼岸の中日)

【令和七年度事業行持報告】

- 一月に一度、照光殿二階・開山堂・位牌堂の害獣防除を行っている。
- 四月八日(火)、十八日(金)、新潟市「ケシステム」から、本堂入口寺院玄関脇のシロアリ駆除してもらった。



シロアリ駆除 4月8日



シロアリ駆除油剤塗布 4月18日

- 四月十一日(金)、山田川から、玄関脇の水瓶までの集水弁の修理。
- 六月二十八日(土)、中庭モミジ三本伐採した。
- 七月三日(木)〜五日(土)に、駒沢



中庭モミジ伐採 6月28日

大学教授角田泰隆老師を講師にお招きし、第二十二回眼蔵会を講本「有時の巻」で、寺での宿泊と飯台を実践し

ながら、行なった。

- 七月二十四日(木)午前十一時より、第三十六回金毘羅大祭を初めて照光殿で行った。御齋無し。
- 八月一日(金)、新盆を初めて照光殿で行った。お齋は無し。
- 八月二四日(日)、第四七回水子地藏・第二六回聖観世音菩薩大祭を初めて照光殿で行った。阿賀町・正壽寺住職眞定明老師にお説教をおつとめ頂いた。御齋、無。



金毘羅大祭 於・照光殿 7月24日



新盆 於・照光殿 8月1日



水子観音大祭 於・照光殿 8月24日

- 八月二六日(火)〜九月二日(火)、山門脇池の陥没箇所・湯田上靈園橋脇の陥没箇所の修復工事を行った。



山門脇池の陥没 8月26日



湯田上靈園陥没復旧工事 9月2日

- 九月二五日(木)〜十月三日(金)、白山つるね伐採
- 参道入口伐採



白山つるね伐採 9月26日



参道入口伐採 10月3日

- 十月十二日(日)午後七時より、田上町仏教会では、東龍寺を会場に、講師に京都府蓮久寺住職三木大雲老師をお招きし、第二十八回秋の講演会を行った。



秋の講演会 10月12日

十月十八日(土)、第十四回湯田上温泉・温泉まつりの初めての企画として、「湯田上温泉女将による「お寺でお茶会」 in 東龍寺」が開かれた。



御茶会 10月18日 【撮影】山口 匠



女将衆 10月18日 【撮影】山口 匠

- 一月二五日(日)、田上町文化財防火デーに伴う放水訓練が東龍寺境内で行われた。
- 消防団二二名、消防本部八名、消防ポンプ車一台、消防団小型ポンプ一台による放水訓練。



防火訓練 1月25日

【寄付御礼】

一、三月二十四日(月)〜四月十日(木)、渡邊喜彦氏(三条丸惣会長)より、昨年度末に引き続き、本堂西室中(新畳)、大間表替え、東室中表替え・廊下一間は西室中の畳の表替えをご寄付頂き、本堂一三〇枚の畳全部が一新された。



日報メディアシップと梅花講の皆さん
3月13日



新潟南蒲倫理法人会 4月21日

【参拝・参拝の報告】
 一、三月十三日(木)、「日報メディアシップで坐禅に親しむ」の会員九名+1dayの方二名、坐禅二炷、お齋無し。梅花講の練習日と重なり、終わって涅槃図の前で記念撮影。
 一、四月八日(火)、ジャパンスタートラベル一行二十五名。



涅槃図を掛けて
ミチ氏、左から2番目 6月26日



武田建設による駐車場除雪
2月10日



本堂西室中の畳新調
3月24日



東室中の畳替え 4月4日

一、六月二十六日(木)、田巻ミチ氏より、本堂内陣用の涅槃図をご寄付頂いた。
 一、二月十日(火)、武田建設の厚意により、駐車場二カ所の除雪をしてもらった。

【令和八年度事業、行持案内】
 一、七月九日(木)〜十一日(土)に、駒沢大学教授角田泰隆老師を講師にお招きし、第二十三回眼蔵会を講本「仏性の巻」で、行う。
 一、四月二十一日(月)、新潟南蒲倫理法人会十四名。
 一、七月十五日(火)、田上小学校六年生、児童三十八名、教員三名。
 一、八月三日(日)、四日(月)の両日湯田上温泉宿泊のクラブツーリズム東京・名古屋の一行、両日併せて六十八名+添乗員四名、朝参禅。
 一、九月十八日(木)、「日報メディアシップで坐禅に親しむ」の会員六名+1dayの方八名、坐禅二炷、お齋無し。

一、十月二十九日(水)湯田上温泉温泉祭りの一環として、十五名。
 一、十月三十一日(金)田上小学校三年生、親子坐禅。児童三十一名・保護者二十一名・教員二名。
 一、一月十一日(日)、東部運送一行、参禅。三十名。



田上小6年生坐禅 7月15日



日報メディアシップ 9月18日

一、四月二十一日(月)、新潟南蒲倫理法人会十四名。
 一、七月十五日(火)、田上小学校六年生、児童三十八名、教員三名。
 一、八月三日(日)、四日(月)の両日湯田上温泉宿泊のクラブツーリズム東京・名古屋の一行、両日併せて六十八名+添乗員四名、朝参禅。
 一、九月十八日(木)、「日報メディアシップで坐禅に親しむ」の会員六名+1dayの方八名、坐禅二炷、お齋無し。

一、十月四日(日)午後七時より、田上町仏教会では、東龍寺を会場に、講師に東北福祉大学学長・千葉公慈老師をお招きし、第二十九回秋の講演会を予定している。
【月例加茂法話会】
 一、毎月一回、夜、加茂市公民館を会場に、僧侶十一名(三名ずつ担当)による法話を聞く会を開催しています。お気軽にご参加下さい。
【月例坐禅会の御案内】
 一、月例坐禅会を毎月第二土曜日夜七時半より行っています。お気軽にご参加ください。
【梅花講のお知らせ】
 一、梅花講では、毎月七日と、二十二日の二回練習をおこなっています。お始めになりたい方は、お気軽にご参加ください。
【お盆、棚経の日程】
 一、今年はお盆の棚経回りを下記の日程で行いますので、ご理解とご協力の程、お願いいたします。
【お盆前】
 新潟・亀田・三条・巻・燕・白根
【十三日 住職】
 新潟・中山・赤渋・笠巻・三ツ屋・三枚瀧・市ノ瀬・覚路津
【お盆中 住職】
 十四日 日本田上
 十五日 上野
 十六日 下吉田・羽生田・川船河
【吉祥寺(光明寺)様】
 十四日 川之下・原ヶ崎・下吉田
 十五日 鎌倉・新保・龍玄・嶋・庄瀬・石田新田・後藤・曾根・横場
 十六日 加茂地区
【少林寺様、若様】
 十四日 湯川・谷・中店・山崎・山田・湯古屋
 尚、当日多少の変更が出る場合もあるかもしれませんが、ご容赦ください。

湯田上温泉祭り 10月19日
【撮影】山口 匠

東北福祉大学学長・千葉公慈老師をお招きし、第二十九回秋の講演会を予定している。
【月例加茂法話会】
 一、毎月一回、夜、加茂市公民館を会場に、僧侶十一名(三名ずつ担当)による法話を聞く会を開催しています。お気軽にご参加下さい。
【月例坐禅会の御案内】
 一、月例坐禅会を毎月第二土曜日夜七時半より行っています。お気軽にご参加ください。
【梅花講のお知らせ】
 一、梅花講では、毎月七日と、二十二日の二回練習をおこなっています。お始めになりたい方は、お気軽にご参加ください。
【お盆、棚経の日程】
 一、今年はお盆の棚経回りを下記の日程で行いますので、ご理解とご協力の程、お願いいたします。
【お盆前】
 新潟・亀田・三条・巻・燕・白根
【十三日 住職】
 新潟・中山・赤渋・笠巻・三ツ屋・三枚瀧・市ノ瀬・覚路津
【お盆中 住職】
 十四日 日本田上
 十五日 上野
 十六日 下吉田・羽生田・川船河
【吉祥寺(光明寺)様】
 十四日 川之下・原ヶ崎・下吉田
 十五日 鎌倉・新保・龍玄・嶋・庄瀬・石田新田・後藤・曾根・横場
 十六日 加茂地区
【少林寺様、若様】
 十四日 湯川・谷・中店・山崎・山田・湯古屋
 尚、当日多少の変更が出る場合もあるかもしれませんが、ご容赦ください。

寺報三十八号を発刊するに当たり、佐藤秀孝老師・吉本英器師・中村拓巳氏・山川敏昭氏・阿部開生君より、ご寄稿を賜り有難うございました。今後皆様のご寄稿をお待ちしております。昨年は、野生動物が人里に現れ、人的被害や農作物被害が危害を加える事件が多発しました。東龍寺でも、初めてサルが来たのを確認しました。自然との共生を誓願してありますが、中々難しい時代になってきました。行持報告にも記しましたが、令和七年度より、暑さ対策で、七月・八月の行持を御齋無しで照光殿で行う事にしました。

曹洞宗心の電話 TEL 0120-508-740
 携帯電話 03-3454-5410
 こちらに電話をすると、全国の曹洞宗の方丈様達が一週間交代で、3分間の「ほとけの心」をわかりやすく説いた法話が流れます。24時間いつでも繋がりますので、是非、お聞きください。

永平寺電話説法 TEL 0776-63-3399
 役寮が、10日ごとに代わって、3分〜5分の法話をしています。

新潟県第四宗務所テレホン (WEB) 法話
【和尚さんの言の葉】 TEL 0250-47-3132
 第四宗務所ホームページ内でも法話を聴くことができます。こちらのQRコードをスマートフォンに読み取ってご覧ください。

編集後記
 寺報三十八号を発刊するに当たり、佐藤秀孝老師・吉本英器師・中村拓巳氏・山川敏昭氏・阿部開生君より、ご寄稿を賜り有難うございました。今後皆様のご寄稿をお待ちしております。昨年は、野生動物が人里に現れ、人的被害や農作物被害が危害を加える事件が多発しました。東龍寺でも、初めてサルが来たのを確認しました。自然との共生を誓願してありますが、中々難しい時代になってきました。行持報告にも記しましたが、令和七年度より、暑さ対策で、七月・八月の行持を御齋無しで照光殿で行う事にしました。

ただ、春秋の彼岸会、常齋米は、御齋を行いますので、是非お参り頂き、御齋にもついて下さい。

山門の屋根で毛繕いするサルの親子 8月26日